

幸せをもう一度

3年 D・Sさん

世界中の子どもに、両親がいるとはかぎらない。母がいない、あるいは父がいない、あるいはどちらもない、そういう人は、たくさんいる。だから、両親がいる人は、運がいい。そして、幸せである。でも、幸せの途中でそれがとぎれた人だっている。楓の場合もそうだった。大切な母をなくした時、自分はどう思うだろう。当然、楓と父は悲しむ。楓は話すこともなくなった。でも、石を通してまわりと話すようになった。そもそも、石のすごさ、大切さを教えてくれたのは母だった。

石を知ることによって楓は、母をなくした悲しみをのりこえられたのだ。

しかし、幸せをなくす悲しみは、楓一人だけだろうか。今でも戦争で、病気で、事故で、いろんな人がなくなっている。しかし、その人の大切な人は受け入れないといけない。死という事は、二度と帰ってこなくなるという事だから。私も実さいに経験したことがある。おじさんが事故でいなくなってしまったことだ。私は彼の家で、花火をしたり、おいかけっこをしたり、おいしいご飯を食べたりした。とても楽しかった。しかし、事故で死んでしまったと知った時、おどろいたし、悲しかった。頭の中が真っ白だ。楓と同じ、楽しかった思い出が崩れたことについて、すてきな幸せも消えたように感じた。一度でもいいから、あの幸せを取り戻したい。あの時を取り返したいと、心の底から思った。

でも、それがどうやってできるだろう。私はこのお話を通じて、幸せはずっとあるものではなく、急にきえるものでもなく、自分の心の中でへん化していく事に気づいた。その時その時の幸せはちがうけど、幸せを感じる力があれば大丈夫だ。また、幸せをなくした悲しみをのりこえられた力が、次の幸せをつくらせてくれる時もあると思ったからだ。私は、「幸せをもう一度、悲しみをありがとう。」と言っていた。